



苦土資材葉面散布による米ナスの収量・品質の向上



写真1 対照区の下位葉 (H21.8.11)



写真2 葉面散布区の下位葉 (H21.8.11)

表1 各処理区の苦土欠乏症の発生状況

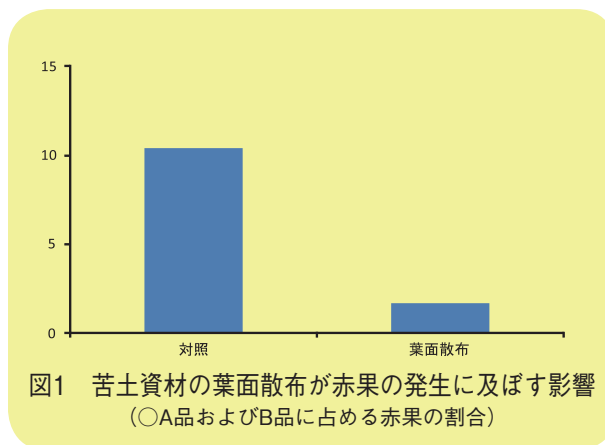
区	7月4日	7月27日	8月11日	9月5日
対照	+-	++	++	+++
葉面散布	-	-	-	-

注) - : 症状なし、+- : 下位葉の一部に発症、+ : 下位葉すべてに発症、++ : 下位葉～中位葉に発症、+++ : 上位葉まで発症・下位葉は落葉

表2 苦土資材の葉面散布が収量に及ぼす影響

区	規格別収量(kg/a)			総収量(kg/a)	A品指数
	A品	○A品	B品		
対照	966	327	712	2,005	100
葉面散布	1,035	388	659	2,082	107

注) 供試品種：‘なつのすけ’ 定植日2009年4月13日、うね間180cm、株間70cm、主枝本数3本、調査期間5月上旬～11月末



米ナスの夏秋栽培では、8月の盛夏期に草勢が弱くなり、赤果等が発生して、収量・品質ともに低下することが問題となっています。今回はその原因の一つと考えられる苦土欠乏症の対策について検討しました。

苦土欠乏症対策として、葉面散布用苦土資材（硫酸マグネシウム16%含有）100倍液を0.5ℓ/㎡、葉の表裏に10日間隔で、6月上旬から10月下旬まで散布し、散布区と散布を行わない対照区を比較しました。

その結果、対照区では7月上旬から葉脈

間の黄化等の苦土欠乏症状が見られ、次第に症状が激しくなったのに対して、葉面散布区では欠乏症状は見られませんでした（写真1、2および表1）。収量・品質は葉面散布区のA品収量が多く（表2）、赤果の発生が少なくなりました（図1）。

このように、米ナスの夏秋栽培では苦土資材の葉面散布を行うことで収量・品質の向上を図ることができると考えられます。

（山間試験室 植田祥平 0887-72-0058）

高知県農業技術センターニュース 第60号 平成22年7月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 岩崎 昭雄

農業技術センター

〒783-0023 高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/se/home/>

農業技術センター山間試験室

〒789-0315 長岡郡大豊町中村大王 3523-7

TEL (0887) 72-0058

FAX (0887) 72-1544

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/se/home/>

果樹試験場

〒780-8064 高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/kaju/index.htm>

茶業試験場

〒781-1801 吾川郡仁淀川町森 2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/kikan/kenkyu/tya/index.htm>